

山下雄平新聞

<発行元>
 山下雄平後援会
 〒840-0801
 佐賀県佐賀市駅前中央
 三丁目6-11
 TEL:0952-37-8290
 FAX:0952-37-8291

ウズベキスタンにODA調査

私は参議院から派遣され、一月十五〜二十日の日程で旧ソ連、中央アジアのウズベキスタンを訪れました。私がウズベキスタン派遣団長に選ばれ、発電施設や農業、教育などの支援事業を調査しました。

派遣団長 発電後押し

参議院は毎年、政府開発援助(ODA)を行って開発途上国に議員団を派遣して、ODA予算執行の調査を含め途上国支援のあり方を検証しています。



カミーロフ外相と会談

国内には四十五の発電所があり、うち火力発電十か所が電力量の八十七%を担っています。人口増加と経済成長などにより電力不足が起きています。

ル当たりのCO2排出量は世界最悪とも言われています。二〇一三年に日本製の火力発電を建設して以来、ガスタービンと蒸気タービンで二重に発電する仕組みを高く評価し、導入を進めています。現地ではガニーエフ対外経済投資貿易大臣と会談しました。

私から「これだけプラントが増えていくとメンテナンス工場の建設も必要になる。今後は新しい施設を導入するだけでなく、高性能の発電所をいかに長く高いパフォーマンスで運営するにも力を注

ぐべきではないか。その分野でも日本は貢献できる」と申し上げました。ガニーエフ大臣は「100%同意する。エネルギーセクターでは日本の企業としか仕事をしないつもりだ」と仰いました。

昨年は新たに二か所で日本の受注が決まりました。電力需給の改善に合わせアフガニスタンへの電力輸出も進める計画です。

カミーロフ外相との会談では中央アジアと日本の対話枠組みにアフガニスタンを入れることを提案されました。ウズベキスタンでのODA事業はイスラム原理主義など過激な思想に走る若者を減らし、国際社会の安定に寄与していくと思えます。

日本人抑留地も訪問

今回の派遣はODA調査が主たる目的でしたが、日本の国

会議員が当地を訪問する意義がもう一つありました。

先の大戦後、ソ連は多くの日本人を捕虜としました。今のウズベキスタンの地域にも極東から二万五千人もの日本人が連行され、強制労働をさせられました。

私の母方の祖父もその一人で、佐賀に帰ることを許されるまで四年間タシュケント(ウズベキスタンの首都)に抑留されてきました。祖父は生きて帰ることが

できましたが、八百人以上の方が命を落としています。

現地には十三か所の日本人墓地がありますが、どこも大切に守られています。

私たちが派遣団が訪れたタシュケントの墓地には、三代にわたって墓守をしてくださっている方がおられます。

この方に限らず、ウズベキスタンの方は親日家ばかりでした。



幼い頃、親切で勤勉な日本人の姿に感銘を受けたそうです。ウズベキスタンの方々は今も我が子に「日本人の姿に感銘を受けたそうです。ウズベキスタンの方々は今も我が子に「日本人の姿が今も本人のようなじみ深い人間になりなさい」と教えているとのことでした。

ウズベキスタンと